



△各店自慢の「牛かつ」メニューを提供

**「亀岡牛」でまちをいっしょに**  
**「商店街に「かつ」力を!!」**

亀岡が全国に誇るブランド「亀岡牛」。その魅力により、まちのにぎわい創りにつなげようと、亀岡駅前商店街振興組合による「亀岡牛「牛かつ商店街」が

スタートしています。商店街で一番多い業種である飲食店を活気づけることが商店街活性化には大切と考え、肉質の柔らかさとうまみが人気の「亀岡牛」を使った「牛かつ」を飲食店の統一メニューとして、市内はもとより全国から観光客などを呼び込むと、同商店街振興組合が企画。また、「亀岡牛」のPRにもなるため食産業の振興にもつながります。

現在参加しているのは、和食、洋食、イタリアン、中華などの19店舗で、各店ごとに自慢の「牛かつ」の新メニューを一品ずつ開発し提供して

※「牛かつ商店街」の詳細については、亀岡駅前商店街のホームページ (<http://gyukatsu.com>) をご覧ください。



**～風情ある城下町を舞台に**  
**宝さがしを楽しもう～**

毎年約4,000人が参加する亀岡の人気イベントとなった「丹波亀山城下町宝さがしゲーム」。

第6弾となった今回は、謎を解明した優秀な民は、より良い国づくりを目指す光秀公の家臣として迎えられるというストーリーです。

JR亀岡駅2階の観光案内所で地図などが入った「宝さがしセット」を受け取って、ゲームスタート。暗号などが記された探索絵図をもと

に、城下町のいたるところに建てられた「謎解き堂」を探し出し、光秀公によって出された「謎」を解きます。困ったときは、「おたすけみくじ」を引くこともできます。この「謎」を解いて判明するキーワードを完成させ、ゴールとなる「本町・町家カフェ」を目指します。

西宮市から参加した長崎晴美さんと矢部美加さんは、「夢コスモス園(吉川町)」に来た時に、このゲームのことを知りました。土地勘がなく、謎解きにも苦戦したのでゴールするのに1時間半かかりました。でも、仕掛けが凝っていて、とても面白かったですね。何とか光秀公の右腕にな

れそうです」と笑顔で話していました。ゲームは参加無料です。12月7日(日)まで行っていますので、皆さんも、ご家族やお友達をお誘いあわせのうえ、ぜひ挑戦してください。詳しくは、JR亀岡駅観光案内所 ☎22・0691までお問い合わせください。



△ゴール地点の本町・町家カフェで発見者賞を引く矢部さん。何が当たるかな・・・!



コーチと一緒にミニゲームを楽しむ子どもたち

**サッカー大好き!**  
**もっとと上手になれるかな**

京都サンガF.C.のホームタウンとなった亀岡市でサッカーの輪を広げ、サッカー経験の有無に関係なく幅広い世代の市民の皆さんと京都サンガF.C.が交流を深める「亀岡サッカーデー」京都サンガフェスタ」が、9月27日、亀岡運動公園競技場で行われました。当日は、さわやかな秋晴れのもと、選手によるサイン

また、京都サンガF.C.のスタッフがコーチとして参加するサッカー体験教室は、年齢ごとに分けられた5教室が設けられ、市内のサッカー教室に通う子どもたちなど、年中児から高校生までの合計約250人が参加。コーチは、サッカーの技術だけでなく、「試合後には相手チームの選手と必ず握手をすること」と、お互いの健闘を称えあうスポーツマンシップの大切さを伝えていました。



△磐瀬選手(左)、三根選手(右)のサインに興味津々

小学校低学年の部に参加した吉田光希くん(つつじヶ丘小2年)は、「広がってパスすること、ゴールにうまくボールを入れる方法を教えてもらいました。すごく楽しかったので来年も参加したい」と笑顔で話していました。

**第三百五十八回**  
**ふるさと亀岡の名品⑦**  
 文化財めぐり

**金剛力士立像**  
 (市指定文化財)

宮前町宮川にある金輪寺の歴史は古く、貴重な文化財を多数有しています。その一つである金剛力士立像は、本堂の両脇に安置され、高さが3メートルある市内で最大級の仏像です。

金剛力士像は、仏の守護神であり、仏門に入ろうとする魔物を防ぐ役目があります。その気合を象徴するような迫力と眼光は、広い本堂の隅々までいきわたっています。

現在は、亀岡でも穴太寺に次ぐ大規模な本堂に安置されていますが、もともとは、山あいの参道中腹に位置する仁王門に安置されていた。

仁王門は構造上、吹きさらしとなるため、金剛力士像も傷みが激しく、昭和51(1976)年に山から下ろして大修理がなされました。当時はまだ山腹の寺まで車道が通じておらず、檀家の人々が協力してこの巨大な両力士像を担いで麓まで運んだそうです。

昨形像は、修理時に判明した正安3(1301)年の像内墨書銘から、鎌倉時代末期の制作であり、阿形像は頭部に古い部分を残しながら、体部は江戸時代までの修理の補作と考えられています。(文化資料館)



△金剛力士立像 金輪寺蔵(宮前町) 左、昨形 右、阿形